

9 病院群輪番制病院運営費補助事業に関すること



(1) 経緯

北アルプス地域の休日及び夜間における入院治療を必要とする重症救急患者の医療を確保するため、昭和 55 年度から、現在の市立大町総合病院と北アルプス医療センターあづみ病院が、輪番制により患者の受入れを行っています。

なお、平成 17 年度に国・県からの補助金は廃止されましたが、関係市町村の負担金により補助事業として継続して行っています。

(2) 現状と課題

病院群輪番制病院の運営は、2病院が交代で圏域の休日及び夜間の二次救急医療体制を確保しています。

近年、救急搬送件数が増加していることから、引き続き、圏域住民の安心、安全を確保するため、関係医療機関と連携し、二次救急医療体制を維持確保していくことが必要です。

(3) 今後の方針と施策

北アルプス地域の休日及び夜間における、入院治療を必要とする重症救急患者の医療を確保するため、補助制度を継続することにより二次救急医療体制が円滑に機能し、住民が安心して二次救急医療を受けられるよう、救急医療機関と連携を図り推進します。

■SDGsの目標との関連

	SDGs17の目標	関連目標
	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	北アルプス地域の住民が、休日及び夜間における入院治療を必要とする重症救急医療を安心して受けられるよう、救急医療機関と連携を図り推進する
	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する	北アルプス地域の住民が安心して生活できるよう、救急医療機関と連携をしながら、安定的、継続的な事業運営に努める